

熊本試験地

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
熊本試験地 主任
松永 孝志

はじめに

熊本試験地が所在する熊本県菊池市（図-1）は、熊本県の北東部に位置し、平成17年に1市2町1村が合併し菊池市となった。それまでは熊本県菊池郡旭志村と呼ばれる地域であった。菊池市の北は大分県、東は阿蘇市、西は山鹿市及び熊本市、南は合志市及び大津町に接している。市の北部及び東部に八方ヶ岳、鞍岳の山が有り、大半を森林が占めている。山岳地帯からの豊富な水は、菊池川、迫間川、河原川、矢護川に西流し、河川流域は菊池平野となり肥沃な土壌を形成している。

沿革

熊本試験地（1996～）の前身である熊本城南試験地は1992年に開設され、1996年に閉鎖されたことにより同年に菊池市旭志尾足（図-2）に移転し熊本試験地と名称変更され現在に至る。

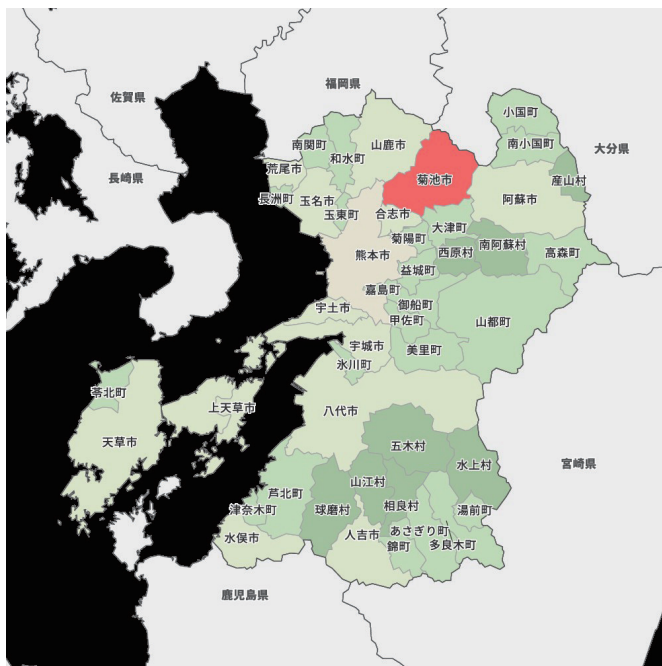


図-1 菊池市の位置

試験地の概要

1) 地理的特徴

気候は主に温暖湿潤気候に分類され、年間を通じて温暖で降水量が多く、湿度が高く、夏の高温と冬の寒さが緩やかに変化する気候である。

2) アクセス

試験地は熊本駅から北東に32km、JR大津駅から北に8km、阿蘇熊本空港から北に13km、熊本ICから北東に26kmであるが、利用できる公共交通機関が無く交通は不便である。

試験の実施状況

試験の圃場は厚層腐植質多湿黒ボク土の埴壤土に分類され腐植含量は9.9%、減水深は1～1.5cm/日である。農業用水は矢護川から分水されており、一年を通じて用水に不便はない。



図-2 熊本試験地の位置 (●)



図-3 試験圃場



図-4 夏の菊池渓谷



図-5 菊池神社

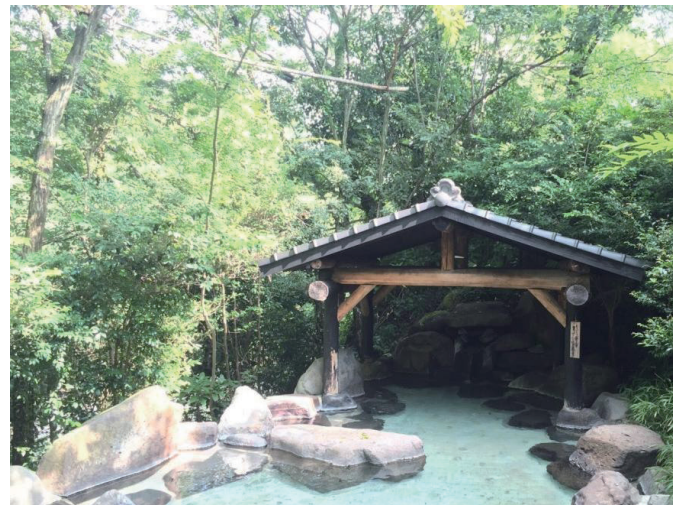


図-6 菊池温泉

水稻用除草剤適用性試験は普通期栽培で実施しており、普通枠(2×1.8 m)、中規模試験に30aの圃場(図-3)、水口処理は11.1aと16.8aの2筆の別圃場を当てている。

移植時期は6月下旬、品種はヒノヒカリを用いている。

対象雑草はノビエ、一年生広葉、ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ、セリであるが一年生広葉を除き、ノビエ及びホタルイは種子を一定量ずつ播種、多年生雑草のミズガヤツリとウリカワは塊茎、セリは切断茎を埋め込んで実施している(ノビエは自然発生を含む)。

例年の残草調査は移植後40日前後の8月上旬、収穫調査は10月中旬である。

周辺の見所

1) 菊池渓谷

阿蘇くじゅう国立公園にある菊池渓谷(図-4)は、原生林と阿蘇外輪山の伏流水が織りなす美しい景観が魅力であ

る。夏には平均気温が13度と涼しく、天然のクーラーとも呼ばれる避暑地として人気を集めている。日本の名水百選、日本の滝百選、水源の森百選にも選ばれており、清らかな水と豊かな自然を満喫できる。

2) 菊池神社

明治3年(1870年)に菊池氏の居城跡に創建された菊池神社(図-5)には、菊池武時公、武重公をはじめとする一族が祀られている。境内には菊池神社歴史館があり、菊池一族ゆかりの文化財が展示されている。春には桜の名所として賑わい、多くの人で賑わう。境内には菊池神社歴史館があり、菊池一族ゆかりの文化財が展示されている。

3) 菊池温泉

菊池温泉(図-6)は、湯量が豊富で肌触りが良く、「美人の湯」として特に女性に人気がある。日本の名湯百選にも選



図-7 冠雪した鞍岳

ばれており、旅の疲れを癒すのに最適である。

おわりに

近隣へ大手企業の大規模工場が進出したことにより、農地の減少、交通渋滞の悪化、地下水への影響、人手不足と人件費の高騰など、農業に多岐にわたる影響を与えている。特に、農地の転用は深刻な問題となっており、代替地の確保が急務

となっている。

最後に試験圃場から望む鞍岳(図-7)をご覧ください。

参考資料

- ・菊池公式ウェブサイト <https://www.city.kikuchi.lg.jp>
- ・菊池観光協会 <https://kikuchi.kannko.ne.jp>